

第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2022年11月17日(木) 19時～21時
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 16名

(1) 授業検討：阿部友幸先生(山形大学附属特別支援学校)

高等部 総合的な探究の時間「食べ物に困っている人のためにできることを考えよう」

【授業概要】

今年度から年間を通してSDGsに関わるグループでの探究活動を始めた
自分の食生活が食糧問題に影響を与えていないか？

「今、食に困っていない自分たちはとても幸せ」 当たり前からの脱却を目指したい
世界には78億人のうち、8億4000万人以上の人々が食べ物に困っている現実
日本にも困っている人はいるのか？

「やまがた福わたし」(フードバンク)の方とオンライン交流

“困っている人に余っている食品をあげたい！”

まずは自分たちで その後に他の人に協力してもらおう

1日100円で生活する人がある → 何が買えるかな(ちょっとしたお菓子ぐらいしか買えない)
(今後)県庁への校外学習を計画している

- ・フードドライブ実施について質問
- ・県庁食堂で食品ロスをなくす取組を見学

学校でフードドライブを実施、「やまがた福わたし」の方を招いて贈呈式

「ひろげる」段階での活動を模索中

【質疑応答から】

- ・今の時点での生徒の価値観の変容は？
→ 山形にも食べることで困っている人がいるんだ！
- ・「やまがた福わたし」以外にも、同様の取組をしている人や団体があれば、
- ・学習のゴールで求めたい生徒の姿は？
→ 食べ物を無駄にしない工夫ができる(誰かに言われているからではなく)
賞味期限を気にするようになる
これらのことを家族や友達に広げていくこと
- ・給食センターなどにも「賞味期限が迫っているものを使う日」がある
- ・「手前どり」ならいつでもできる
- ・賞味期限を気にするのは、「食べ物を無駄にしない」ためのこと
自分のそのときの状況によって、賞味期限の長いものを買うか、近いものを買うか選べるように

(2) 単元構想案の検討：佐藤亨樹先生(山形市立大曾根小学校)

小学校4年生 社会科「山形の特産品 “紅花” を広めた大名 ～最上義光～」

【授業概要】

学習問題：「最上義光はどのような人物で、どうして紅花づくりを広めたのだろうか？」

紅花・・・山形の特産品、西陣織の染料、化粧品、薬

「米の百倍、金の十倍」と謳われた大変な高級品

義光の六大事業

- ・山形のまちづくり
- ・寺社の保護
- ・最上川舟運の整備
- ・紅花生産の奨励
- ・庄内平野の新田開拓
- ・上方文化の移入

これらを調べることを通して、義光の人となり迫る

紅花をつくって売ること、玉形の人豊かになる

県外の人と交流することで新たな文化生まれる

なぜ紅花づくりを広めたのか、自分たちの考えを学芸員の方に聞いてもらう

呉服店の社長さんをゲストティーチャーに来てもらって話してもらう

→ 400年経った今も紅花が大切にされていること

県外の多くの人に山形の紅花が認められていること

「これから大切にしていきたい山形のもの、大曾根のものはないかな？」

大曾根の鯉、味噌、民話、太鼓、伝統野菜、郷土料理など

【質疑応答から】

- ・「先人のほたらき」の学習は、その事業が今の私たちの暮らしにどうつながってきているかがきちんと見えることが大事
- ・紅花は子どもたちにとって身近な存在なのだろうか
導入では、紅花を身近に感じるための工夫が必要かも
- ・沖縄も紅花づくりがさかん（紅型）
山形と沖縄とのつながりが見えてきたらおもしろいかも
- ・「ひろげる」段階では、今の行政のことを取り上げてみては？
県の総合計画について自分たちに関わる事業について調べたりして、共通項を見つけるといい
今よりも豊かなくらし、よりよいくらしを目指して行われているはず

(3) 授業検討：阿部大輔先生（山形市立千歳小学校）

小学校6年生 総合的な学習の時間

「平和」とは何かを考える ― 当たり前ではない山形の「平和」、そして「感謝」 ―

【授業概要】

平和は当たり前にあるものではない ロシアとウクライナの戦争

→ 多くの人の思いや営みがあってこそ維持されるもの

① ユニセフとの交流・・・世界の子どもたちの現状を知る

今も戦争をしている地域があり、多くの子どもたちは私たちのような暮らしができていない

② 広島の小中学生とのオンライン交流

山形：「平和って何ですか？」 広島：「あたたかいご飯が食べられて、暖かい布団で寝られること」

広島：「山形にとっての平和とは？」 山形：「・・・・・・・・」

→ もっと勉強しないと！ 原爆についてもっと調べよう！

平和のためにわたしたちにできることは何だろうか？

図工、国語（「平和のとりでを築く）、体育（表現：平和をテーマに）

校内にある戦没者慰霊碑について学ぶ

戦時中には近くに空港があり、空襲を受けて死んだ人もいる

10月に行われた慰霊祭に参加した児童もいる

(今後) 広島の小中学生との2回目の交流・・・自分たちの学びの成果を伝える

【質疑応答から】

- ・山形での平和学習はどの程度行われているのか？
 - ほとんどされていないのが現状
- ・そもそも平和って何？
- ・いろいろな人との出会いがある実践で、ダイナミックですばらしい
- ・同じ情報なのに、それをどう捉えるかによって変わってくる
身近なところに平和学習のネタはころがっている
- ・平和学習のゴールは、民主主義の重要性に気付くことではないか
為政者を正すことができるのは国民！ 話し合い、対話の大切さを感じる